

植物活性栄養剤

サンフミン SI-605

自然が生み出した天然有機物『フミン酸』
 悠久の時を経て、太古の植物が微生物の力で蘇った！まさに自然の産物。それがフミン酸。
 アフリカ・ニューメキシコ州にある、海水を含まず十分に酸化された最高品質のフミン質層から掘り出した原体(当社製品フミンエースG参照)を原料としています。

特殊加工で水溶液中の自由分散に成功！
 サンフミンは沈みません。水中で均一なエマルジョン(ブ라운運動による)を維持します。大きさは10~80μm(1μm=0.001mm)と小さく、目詰まりの心配もありません。

- CEC&保肥力の向上
- キレート効果によるリン酸肥効の向上

植物の健全育成・樹勢回復、低温時の養分吸収、果物の成り腰れの軽減や連作障害の緩和に！

土壌の団粒化や通気性・透水性の向上、急激な酸性化や塩基濃度障害の軽減に！



- 土壌微生物の活動を刺激
- 根の機能向上と新根の生育促進

水に不溶・分散体フミン酸と水に溶解・水溶性フルボ酸の相乗効果

均一に分散したフミン酸粒と水溶性フルボ酸が、あらゆる場面でその効果を発揮します。

内容成分

フミン酸	40%
フルボ酸	20%
炭素	10%

天然由来品故、上記数値は代表値であり保証値ではありません。
 その他に、カリウム、リン酸、Ca、S、Mg、Fe が微量に含まれています。

容量 5kg入タイプール (250g x 20袋)

使用方法

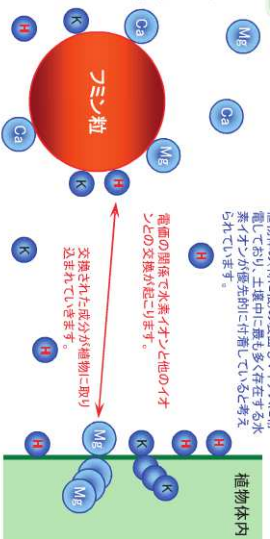
- ・基本的に、水に溶かし、使用します。
- ・水への最大分散濃度はおよそ13%(水10あたり30g)です。
- ・使用前、水を張った容器にサンフミンを入れておくと時間と共に自然と分散していきます。
- ・植物への使用量例は下表の通りです。

芝(洋芝/コウライ芝)	農作物
0.1~0.3g/m ²	10a当たり1kgを目安に 1000~2000倍液を 製品量で50~80g/m ²

- 製品中の残留農薬分析(434成分)を実施し、434成分全てにおいて検出されなかったことを確認しています。JFEテクノリサーチ(株)調べ
- 魚毒性はA類相当であることを確認しています。(物)日本食品分析センター調べ

フミン酸のキレート効果

フミン酸粒の表面は、通常アミノ酸に帯電しており、そこに土壌中のカチオン(NH₄⁺、K⁺、Ca²⁺、Mg²⁺、Fe、Mn)などが吸着されやす。これが、肥料保持効果を生み出す。土壌中には多量があり、植物に有用なカチオンが優先的に吸収されやす。



(注)图中の物質は溶解時に電価を持ちますが、本図は模式図でありイオンの形態を省略して記しています。

使用上の注意

- ▲ 肥料の吸収を高めますが、特に野菜の幼苗生育期から収穫初期にかけて、短期間に連続使用すると樹勢が強くなりすぎる場合があります。
- ▲ 水に溶かして使用する場合、カルシウム剤やマグネシウム剤等土のような金属もしくは微量栄養素を主成分とするあるいは多く含む液肥とは混合しないで下さい。キレート効果により沈殿を生じ目詰まりを起す場合があります。
- ▲ 水はけが悪く、雨期などに弱水しやすい場所では、肥料の吸収が急激に高まる場合があります。ご注意ください。
- ▲ 水に分散させる場合、タンクに一度に投入するとタンクになって溶けにくくなります。分散状態を確認しながらさらさらと投入して下さい。液面に均一に浮いた状態であれば時間と共に液中に分散していきます。
- ▲ 農薬、高アルカリ性肥料との混用はできません。
- ▲ 分散液を葉面散布する場合、葉に付着した液から葉内に入り込み染みになる場合があります。観葉植物やシクラメン、蘭などの鉢物、出荷前のシタマやキャベツなどの野菜への葉面散布は避けして下さい。
- ▲ 良質のフミン酸が主成分です。肥料との混用を基本として、土壌養分を見ながらお客様のご都合に合わせてお使い下さい。

製造販売元

スギムラ化学工業株式会社

本社：名古屋市中区丸の内一丁目12-4
 電話：052-211-6000(代)
 研究所 緑化チーム
 電話：052-777-6100(代)

販売代理店